

栗山川流域遺跡群多古町谷中地点

－特定交通安全施設等整備事業(二種)簡易パーキング建設・

仮称「道の駅多古」埋蔵文化財調査報告書－

平成11年3月

千葉県土木部
多古町
財団法人 千葉県文化財センター

くりやまがわりゅういき たこ やつなかちてん
栗山川流域遺跡群多古町谷中地点

—特定交通安全施設等整備事業(二種)簡易パーキング建設・
仮称「道の駅多古」埋蔵文化財調査報告書—



序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第350集として、千葉県土木部および多古町の簡易パーキング・仮称「道の駅多古」建設に伴って実施した香取郡多古町栗山川流域遺跡群谷中地点の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、縄文土器が出土するなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護と理解のための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を始めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成11年3月31日

財団法人千葉県文化財センター

理事長 中村好成

凡　　例

- 1 本書は、千葉県土木部及び多古町による簡易パーキング・仮称「道の駅多古」建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県香取郡多古町多古字谷中1,067-1ほかに所在する栗山川流域遺跡群谷中地点（遺跡コード349-006）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県土木部及び多古町の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業は、調査部長沼澤豊、東部調査事務所長三浦和信の指導のもと、主任技師荒木清一が下記の期間に実施した。

発掘調査 平成10年8月3日～平成10年8月31日

整理作業 平成10年9月1日～平成10年9月30日

- 5 本書の執筆は、主任技師 荒木清一が担当した。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、千葉県土木部、多古町教育委員会ほか多くの方々から御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
 - 第1図 国土地理院発行 1/25,000地形図「多古」(N1-54-19-10-2)
 - 第2図 多古町発行 1/2,500都市計画図 (IX-KF 94-4)・(IX-LF 04-2)
 - 2葉を合成し、編集し直した。
- 8 標高は、T・P（東京湾平均海面高度）を使用した。座標系は、第IX系である。
- 9 周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。

本文目次

Iはじめ	1
1 調査の経緯	1
2 遺跡の位置と周辺の遺跡	1
II調査の概要	3
1 調査の方法	3
2 調査の成果	3
IIIまとめ	8
報告書抄録	巻末

挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺関連遺跡分布図	2	第4図 出土遺物（1）	6
第2図 グリッド・トレンチ配置図	4	第5図 出土遺物（2）	7
第3図 土層断面図	5		

表目次

第1表 周辺縄文時代主要遺跡・独木舟出土地一覧	2
-------------------------	---

図版目次

図版1 遺跡周辺航空写真
図版2 遺跡調査前・調査状況

図版3 トレンチ掘削状況・土層断面
図版4 出土遺物

I はじめに

1 調査の経緯

千葉県土木部及び多古町では、特定交通安全施設等整備事業の一環として、簡易パーキング・仮称「道の駅多古」建設を計画した。このパーキングの建設が計画された多古町を含む栗山川本支流域は、広範囲にわたり埋蔵文化財が数多く所在する地域である。このため、千葉県教育委員会では千葉県土木部及び多古町と協議した結果、建設工事に先立ち、用地内に所在する埋蔵文化財について記録保存の措置をとることになり、財団法人千葉県文化財センターが発掘調査を実施することになった。

2 遺跡の位置と周辺の遺跡

広範囲にわたる栗山川流域遺跡群の中で谷中地点の所在する多古町は、千葉県北部、香取郡の南端に位置する。東西14.5km、南北11.5km、周囲54km、面積72.67km²を有し、町のほぼ中央を栗山川が南下する。土地利用はおおむね、低地は水田、台地は畑・山林であるが、近年、台地上を中心に住宅団地や工業団地等の開発も進んでいる。

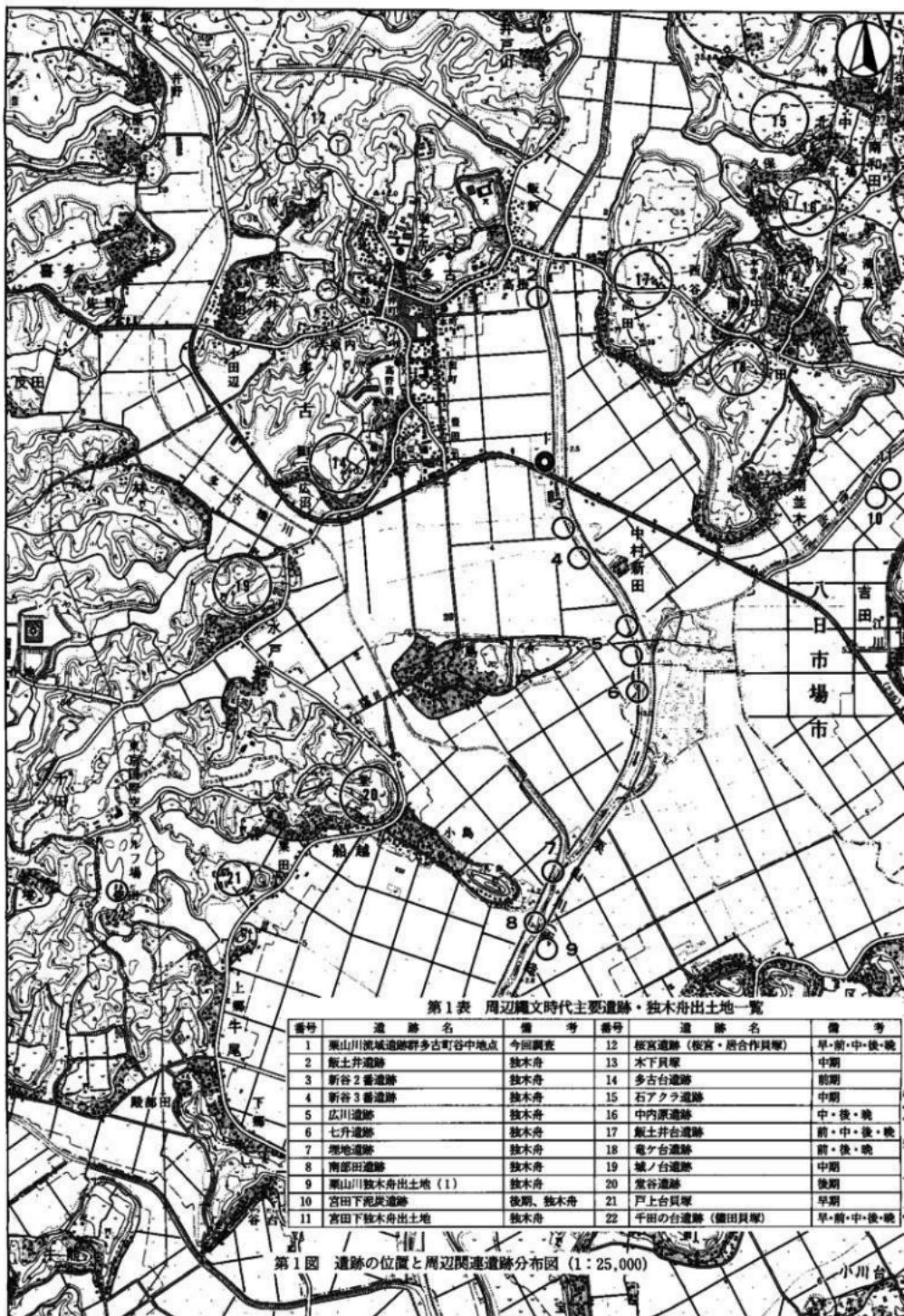
「多古」は、古くは「広沼」と称され、後に「田子」に改め、さらに「多古」になったといわれている。また、沼地が多かったので「多湖」と称し、後に「多胡」、さらに「多古」と略したともいわれている¹⁾。いずれにしても、この地に古来沼地を含む低湿地が広範囲に分布していたことを裏付けるものであろう。

栗山川流域遺跡群多古町谷中地点は、栗山川右岸の標高約4mの低湿地（千葉県香取郡多古町多古字谷中1,067-1ほか）に所在する。栗山川は下総台地を開析し、九十九里平野を経て太平洋に注ぐ河川で、主に農業用水として利用されている。調査地点脇の現在の川幅は、25～35mほどである。

栗山川本支流域の低湿地は、過去に独木舟が数多く出土していることで有名であり、県内でも特色ある地域性を示している。今回の調査地点の近くでも過去に、飯土井遺跡、新谷2番遺跡、新谷3番遺跡、広川遺跡²⁾、七升遺跡、埋地遺跡、南部田遺跡、栗山川独木舟出土地（1）、宮田下泥炭遺跡、宮田下独木舟出土地等、栗山川流域遺跡群で多数の出土例が報告されている。また、台地上には桜宮貝塚、居合作貝塚、木下貝塚、中内原遺跡³⁾、飯土井台遺跡、龍ヶ台遺跡、多古台遺跡⁴⁾等、縄文時代の遺跡が多く確認されている。このほかにも、周辺台地上には各時代の遺跡が確認されている。

注

- 1 1921(1989復刻版) 「千葉県香取郡誌」 千葉県香取郡役所
- 2 佐藤喜一郎 1996 「多古町栗山川流域遺跡群」 多古町教育委員会
- 3 佐藤喜一郎 1997 「多古町栗山川流域遺跡群・島八幡下遺跡」 多古町教育委員会
- 4 勝又貴行 1988 「中内原遺跡」 多古町教育委員会
- 5 柿沼修平ほか1976 「多古台遺跡群調査概報」 日本国文化財研究所



第1表 周辺縄文時代主要遺跡・独木舟出土地一覧

番号	遺跡名	備考	番号	遺跡名	備考
1	栗山川流域遺跡群多古町谷中地点	今回調査	12	桜宮遺跡（桜宮・居合作貝塚）	早・前・中・後・晩
2	阪土井遺跡	独木舟	13	木下貝塚	中期
3	新谷2番遺跡	独木舟	14	多古台遺跡	前期
4	新谷3番遺跡	独木舟	15	石アクラ遺跡	中期
5	広川遺跡	独木舟	16	中内原遺跡	中・後・晩
6	七升遺跡	独木舟	17	鰐土井台遺跡	前・中・後・晩
7	埋地遺跡	独木舟	18	竈ヶ台遺跡	前・後・晩
8	南部田遺跡	独木舟	19	城ノ台遺跡	中期
9	栗山川独木舟出土地（1）	独木舟	20	堂谷遺跡	後期
10	宮田下尾炭遺跡	後期、独木舟	21	戸上貝塚	早期
11	宮田下独木舟出土地	独木舟	22	平田の台遺跡（櫛田貝塚）	早・前・中・後・晩

第1図 遺跡の位置と周辺関連遺跡分布図 (1:25,000)

II 調査の概要

1 調査の方法

今回の調査地点は、栗山川と国道296号線が交わる多古大橋のたもと、同河川右岸上流に所在する。

多古町の耕地整理は、全国に先がけ明治34年から施行されていて、本調査区も現在は荒蕪地であるが、長い間水田として利用されてきた場所である。また、脇を流れる栗山川も昭和40年代に河川改修がなされ、現河道はその時からのものである。

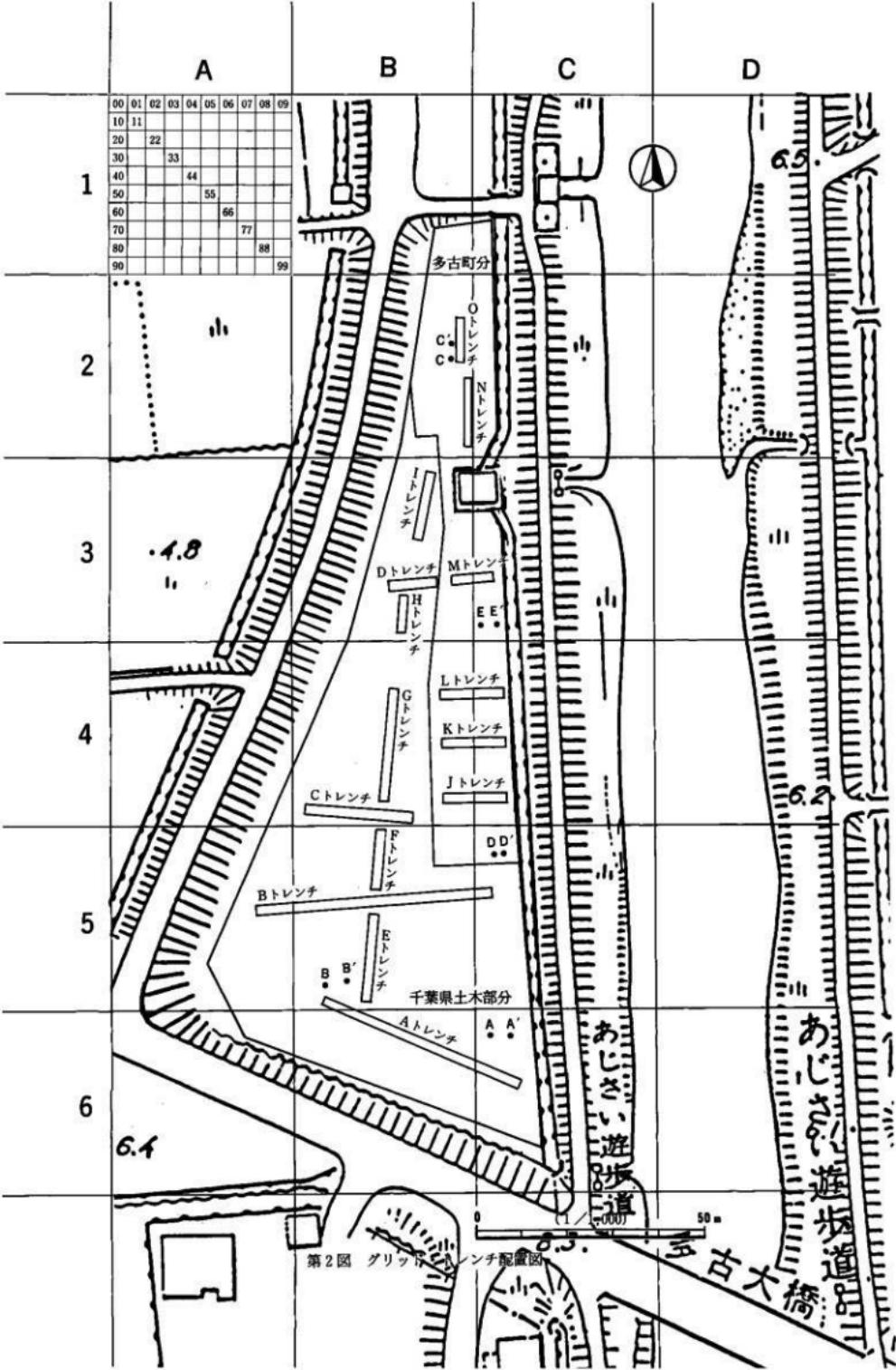
調査対象面積7,218m²のうち、千葉県土木部分が5,329m²、多古町分が1,889m²であり、それぞれの5%にあたる266m²、94m²に対し確認調査を実施した。過去の経験から低湿地の発掘調査では、軟弱地盤と湧水への対応に苦慮してきている。さらに、今回発掘調査を行った時期は稻刈り前の8月であり、栗山川の水位は高かった。このような状況から、安全かつ効率的に作業が行えるよう万全を期し、以下のとおり作業を行った。

調査対象範囲全域を、公共座標X = -29,800, Y = 58,280を原点に東西南北に40m × 40mの方眼網を設定し、大グリッドとした。大グリッドの呼称法は、北西に起点を置いて、北から南に1、2、3、……とし、西から東へA、B、C……として、これを組み合わせて使用した。大グリッド内には4m × 4mに100分割した小グリッドを設定し、北西隅を起点に00、01、02……として南東隅を99とする。小グリッドの表記はこれにより、大グリッドと小グリッドを組み合わせて、1A-00、1A-01……1A-99のように呼称し、遺構・遺物の平面的帰属を示すこととした。(第2図)

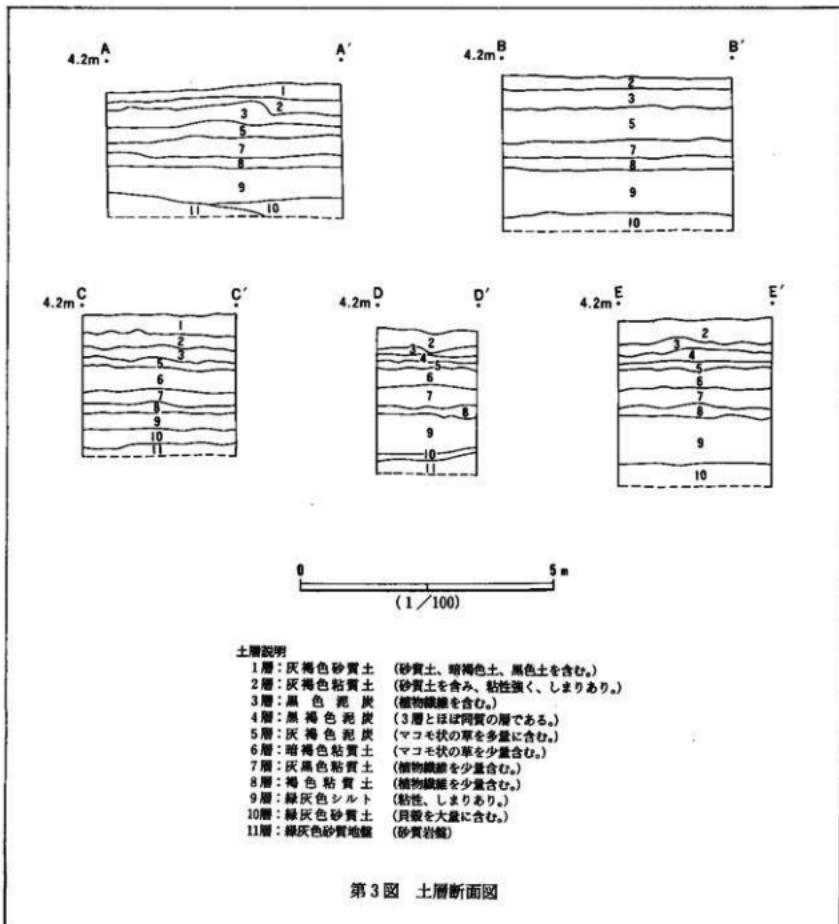
調査区全体をできるだけ網羅するよう確認トレンチを設定した(第2図)。トレンチの掘削には重機(バックホウ)を使用した。まず、湧水と土層の状況を確認するため、栗山川に最も近いトレンチの調査を最初に行つたが、予想以上に土砂の崩落と湧水が激しく、土層の確認も容易ではなかった。周辺遺跡の報告から緑灰色のシルト層の上位にある褐色土層を縄文時代(後・晚期)の地層(本調査区では、表土から150~180cmの深さ)としておさえた上で、この層を中心に遺物の検出にあたった。重機により層ごとに掘り上げた土を、それぞれ人力で崩し、遺物を検出する方法を探った。掘り上げたトレンチは壁が崩れやすく危険なため、必要な記録をとった後は速やかに埋め戻した。

2 調査の成果

土砂崩落と湧水が著しく、確認トレンチの壁面では堆積土の基本層序の実測ができなかつたため、確認トレンチとは別に土層観察用に掘削を行った。確認トレンチよりも広い範囲を掘削し、その一部を深く掘削して湧水を集め、揚水ポンプを用いその水を適宜排水した。場所によっては、それでも土砂の崩落をくい止められず、安全面を考慮し2~3段階に分けて観察と実測を行つた。8月の下旬になると稻刈り準備のため栗山川下流の水門を開けたので水位が下がり作業はしやすくなつた。土層の堆積は、地点ごとに多少の差はあるものの、11層に分層することができた。上層から、1層:灰褐色砂質土(粘質土、暗褐色土、黒色土を含む。休耕田として放置されていたため他の流入土であろう。)、2層:灰褐色粘質土(砂



質土を含み、粘性強く、しまりあり。所々に鉄分の沈殿が確認できる。下位層との間に不整合面が確認できるので現代の水田耕作土であると思われる。)、3層：黒色泥炭（植物繊維を含む。）、4層：黒褐色泥炭（3層とほぼ同質の層であるが、地点によっては色調の違いが顕著である。）、5層：灰褐色泥炭（マコモ状の草を多量に含む。）、6層：暗褐色粘質土（マコモ状の草を少量含む。）、7層：灰黑色粘質土（植物繊維を少量含む。）、8層：褐色粘質土（植物繊維を少量含む。極少量の菱の実を検出。）、9層：緑灰色シルト（粘性、しまりあり。）、10層：緑灰色砂質土（貝殻を大量に含む。）、11層：緑灰色砂質地盤（砂質岩盤）である。



確認調査の結果、遺構は一切検出されなかったが、遺物を少量検出した。図示できる遺物は以下のとおりである。

1～3は縄文時代後期の加曾利B式に属するものである。1は口縁部の破片であり、R L縄文に平行沈線文と半截竹管による刺突文を施した帶縄文に仕上げられている。口唇部は平らに整形された平縁である。上部及び内面は器形に沿った横方向のミガキによって丁寧な調整が施されている。2は胸部の破片であり、L R縄文に半截竹管による沈線文が施されている。どちらも出土地点は、Fトレントの5B-24グリッド内である。3は口縁部の破片であり、縄文を磨り消した後に半截竹管による沈線文を施し、口唇直下には貼付紐線文を配している。口唇上は丸縁でやや肉厚に仕上げられている。出土地点は、Nトレントの2B-99グリッド内である。

4は復元口径10.9cmを測る、土師器壺の口縁部の破片である。胎土中には雲母及び石英の微粒子を多く含み、色調は内面は黒褐色、外面は暗赤褐色を呈する。器面は内外面とも被熱により荒れている。体部はヘラケズリ、頸部はナデにより調整されている。

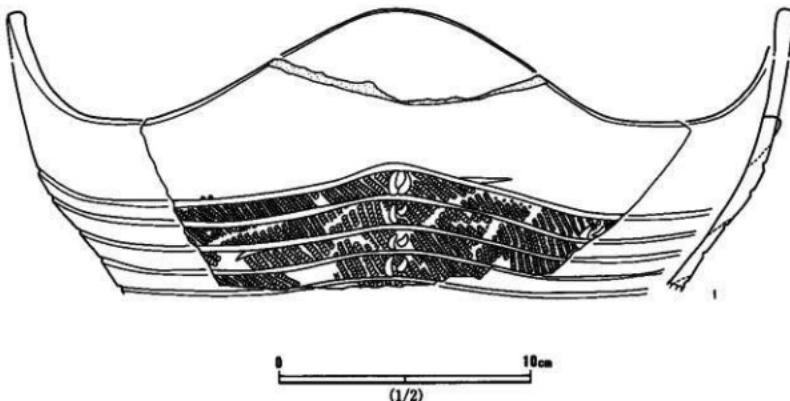
5は擂鉢の底部である。器肉には雲母及び石英の微粒子を含む。内面底部は使用痕でつるつるになっている。

6・7は割り出し高台をもつ陶器碗の破片であり、6は見込みに刻印が見られ、灰色の釉がかけられている。7は浅黄灰褐色の釉がかけられている。8は陶器擂鉢の破片である。

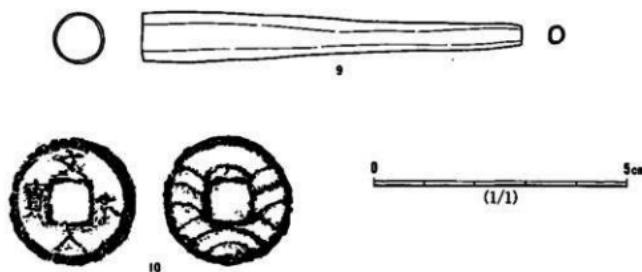
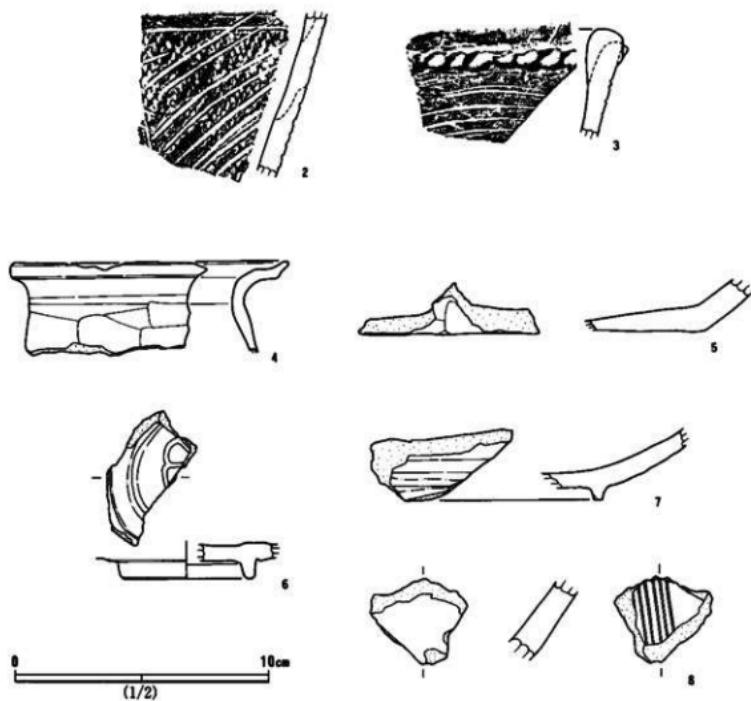
9は煙管の吸口である。長さ7.5cm、幅1.0cmを測る。

10は文久永寶の裏波錢である。

4～10の検出土層は6層より上の層であるが、はっきりと特定できなかった。



第4図 出土遺物(1)



第5図 出土遺物(2)

III　まとめ

今回の調査では、縄文土器片及び土師器片など少量の遺物を検出したものの、それらに関連する遺構は検出されず、確認調査を実施して終了した。

検出した縄文土器3点は、いずれも加曾利B式に属するものである。検出土層は、7・8層であることから、この地層が縄文時代の後期ころ堆積したものと考えられる。この層は、栗山川流域遺跡群に属する多古町中城下泥炭遺跡¹⁾におけるVI・VII層、同じく八日市場市借当川沼田泥炭遺跡²⁾における4・5層に対応する。

沼田泥炭遺跡の調査報告において古環境の復元がなされているが、本遺跡においても同様の環境変化があったと考えられる。ただし、本遺跡においては発掘時の検出遺物が少ないと、両遺跡間の距離が3.5kmとやや離れていることから、参考にする程度であるが、対応する土層をここに比定し、古環境を復元しておきたい。

本遺跡における10層は大量の貝殻を含み、沼田泥炭遺跡における7層に対応し、縄文時代前期のいわゆる縄文海進のころの海底であったと推定できる。シルトの堆積した9層は、沼田泥炭遺跡における6層に対応し、縄文時代後期初頭に海水の影響を受けながらも潟湖化した止水域であったと推定できる。少量ながら植物繊維及び浮葉植物の菱の実を含む7層、8層は、沼田泥炭遺跡における4層、5層に対応し、縄文時代後・晩期に海水の影響を受けなくなった池沼であったと推定できる。6層以上は、沼田泥炭遺跡における3層以上に対応し、湿地となった古墳時代から水田化する平安時代以降、現代までの地層と推定できる。

栗山川本支流域における低湿地の調査では、今後も独木舟を検出する可能性は高い。沼田泥炭遺跡の指摘の通り、出土した層位の古環境を踏まえた上で独木舟の用途を考えることも必要であろう。また、低湿地で出土した土器等の遺物と台地上にある同時代の遺跡との相関関係を考えることにより遺跡間のつながりを概観することも大切であろう。

注

- 1 青木幸一・勝又貴行 1987 「千葉県多古町中城下泥炭遺跡発掘調査報告書」 多古町遺跡調査会
- 2 高梨俊夫 1998 「八日市場市借当川沼田泥炭遺跡」 財団法人 千葉県文化財センター

栗山川流域遺跡群多古町谷中地点

遺跡周辺航空写真（昭和42年撮影）1:10,000



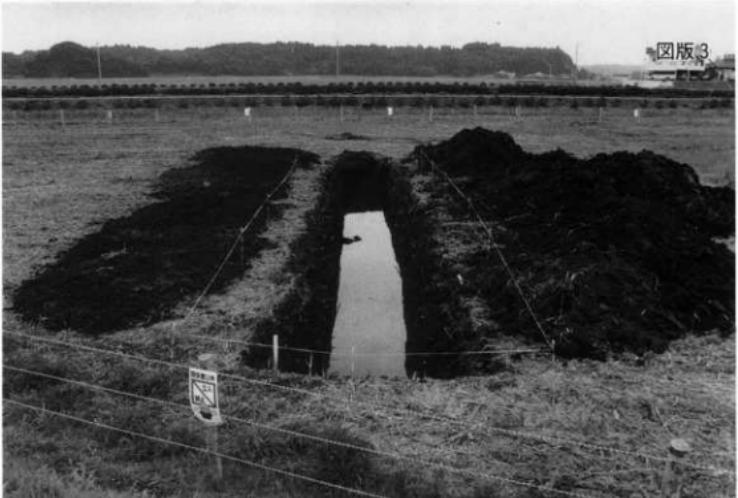
調査前（南東から）



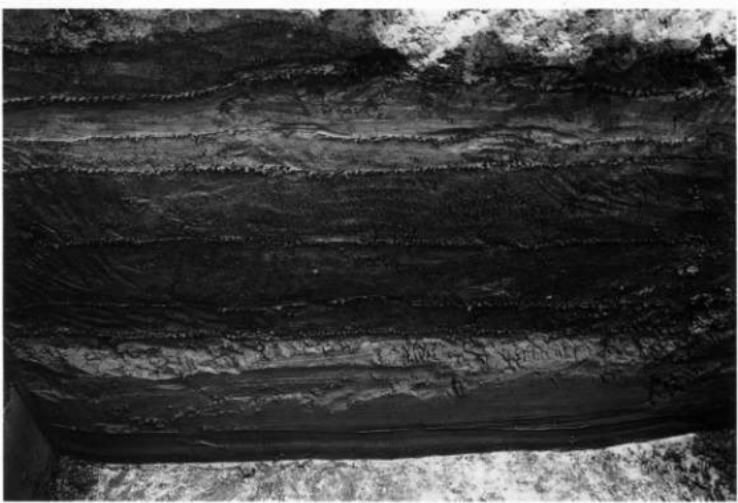
調査前（北西から）



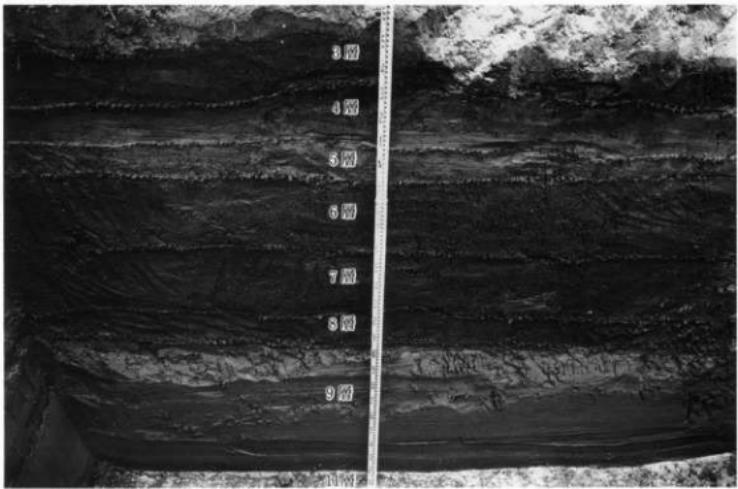
調査状況



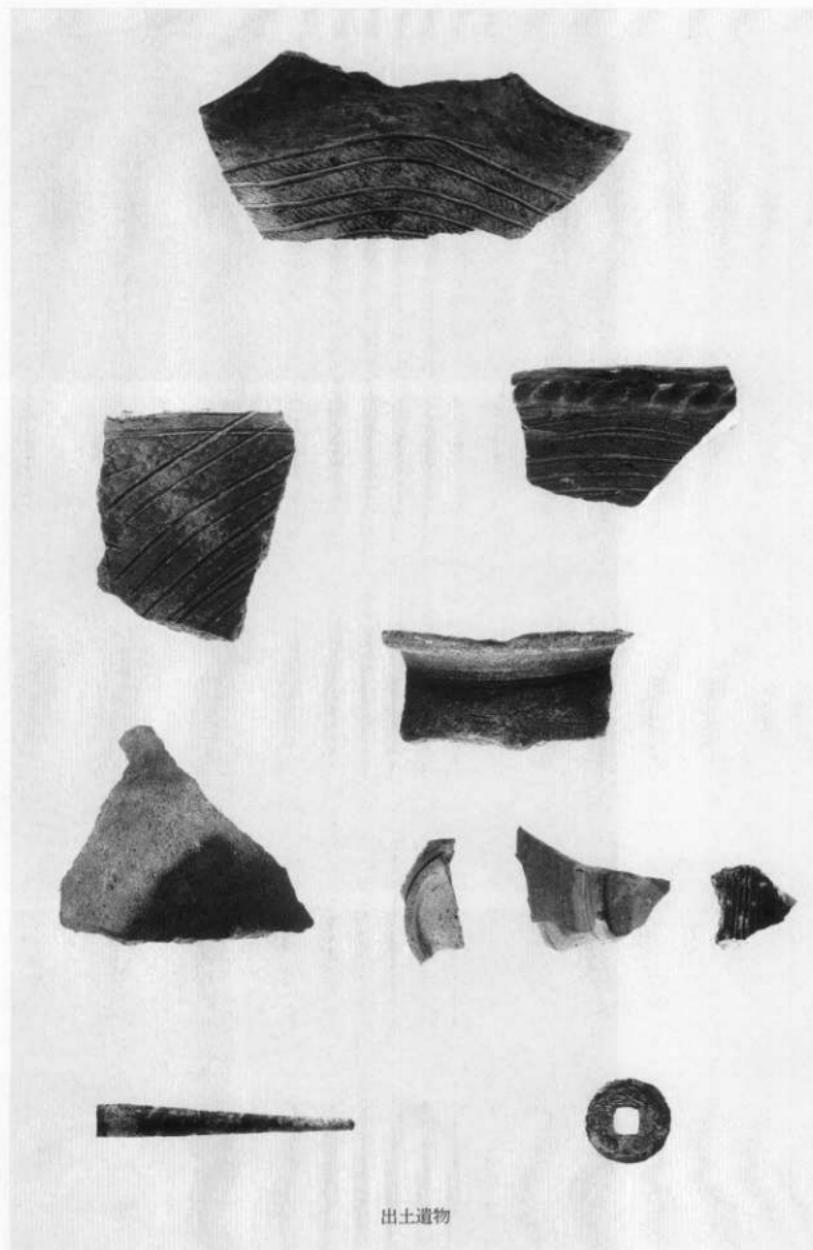
トレンチ掘削状況



土層断面



土層断面



出土遺物

報告書抄録

上りがな	くりやまがわりゅういきいせきぐんだこまちやつなからてん							
書名	栗山川流域遺跡群多古町谷中地点							
副書名	特定交通安全施設等整備事業(二種)簡易パーキング建設・仮称「道の駅多古」埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	財団法人千葉県文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第350集							
編著者名	荒木清一							
編集機関	財団法人千葉県文化財センター							
所在地	〒284-0003千葉県四街道市鹿渡809-2				TEL043-422-8811			
発行年月日	西暦1999年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
所収遺跡名	所在地	市	町村	遺跡番号	° ″	° ″		
栗山川流域 遺跡群多古町 谷中地点	香取郡多古町 多古字谷中 1,067-1ほか	12347	012	35度 43分 40秒	140度 28分 42秒	19980803 ~ 19980831	7,218	簡易パーキング・仮称 「道の駅多古」建設に 伴う埋蔵文化財調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
栗山川流域遺跡群多古町 谷中地点	低湿地	縄文時代		縄文土器				
		平安時代		土師器				
		近世		陶磁器、煙管、錢貨				

千葉県文化財センター調査報告書第350集
栗山川流域遺跡群多古町谷中地点
－特定交通安全施設等整備事業(二種)簡易パーキング建設・
仮称「道の駅多古」埋蔵文化財調査報告書－

平成11年3月31日発行

編 集 財団法人 千葉県文化財センター

発 行 千葉県土木部

千葉市中央区市場町1-1

多 古 町

香取郡多古町多古584番地

財団法人 千葉県文化財センター

四街道市鹿渡809-2

印 刷 株式会社 エリート印刷

千葉市中央区市場町6-8
